

2019年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
石黒 成直

石黒でございます。私から2019年3月期通期業績見通しについてご説明します。

第3四半期の売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow 

(億円)

セグメント 区分	2019年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第3四半期予想 (対2Q)
受動部品	1,121	+1%~+3%
センサ応用製品	206	±0%
磁気応用製品	754	△5%~△7%
エネルギー応用製品	1,548	±0%
その他	160	—
合計	3,789	△1%~△3%

為替レート \$/Yen
為替レート EURO/Yen

111.50
129.63

為替前提

110.00
130.00

2019年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2018
広報グループ・2018/10/31・2

まず今期第3四半期の売上増減のイメージです。

受動部品セグメントは、自動車の販売が地域によって市場動向にばらつきが出てきているものの、当社が強みとしているパワートレイン、ADAS向け需要環境は全体的に引き続き堅調に推移することが見込まれます。コンデンサは安定的に推移、またインダクティブデバイスを中心に販売が増加し、受動部品セグメント全体で1~3%の増加を見込んでいます。

センサ応用製品セグメントは、排ガス試験法施行の影響で一時的に受注が減少していた温度・圧力センサの売上が回復する一方、磁気センサはICT市場向け販売がシーズンリティの影響で若干減少、MEMSセンサは第2四半期から微増にとどまり、全体では第2四半期から横ばいを見込んでいます。売上見通しについて、期初において通期で前期比約30%の成長を目指していけるとご説明しましたが、下半期に計画していた新製品の市場投入に少し時間を要しており、今期における大きな増加は難しい状況となっています。

磁気応用製品セグメントは、HDDヘッドの出荷数量指数が第2四半期の97から第3四半期は87と約▲10%の減少、一方HDDサスペンション売上はほぼ横ばいながら、サスペンション応用製品の販売が本格化し、サスペンション全体の売上は増加する見込みです。磁石はほぼ横ばいの見込みで、磁気応用製品セグメント全体としては▲5~7%減少すると見込んでいます。

エネルギー応用製品セグメントの二次電池については、北米得意先向けの売上が増加する一方、中国得意先向け販売が若干減少、またゲーム機などの非スマートフォン向け売上も減少すると見込んでいます。また産業用電源の販売は若干減少すると見ており、エネルギー応用製品全体としては第2四半期からほぼ横ばいで推移すると見込んでいます。

以上の結果、全社合計の第3四半期売上は第2四半期売上3,789億円から▲1~3%の減少を見込んでいます。

2019年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow 

(億円)	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 業績予想 (2018年4月発表)	2019年3月期 業績予想 (2018年10月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高	12,717	13,400	14,200	1,483	11.7
営業利益	897	1,000	1,200	303	33.8
営業利益率	7.1%	7.5%	8.5%	+1.4 pt	-
税引前利益	898	980	1,140	242	26.9
当期純利益	635	700	800	165	26.0
1株当たり利益(円)	502.80	554.43	633.53	-	-
配当金	上期：60円 下期：70円 年間：130円	上期：70円 下期：70円 年間：140円	上期：80円 下期：80円 年間：160円	-	-
為替	対ドルレート	110.93	105.00	下期 110.00	-
	対ユーロレート	129.64	129.00	下期 130.00	-
固定資産の取得 (設備投資)	1,786	2,100	2,100	314	17.6
減価償却費	922	1,100	1,100	178	19.3
研究開発費	1,026	1,100	1,100	74	7.2

2019年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2018
広報グループ・2018/10/31・3

最後に通期の連結業績予想についてご説明します。

上半期の実績および下半期の販売動向を踏まえ、期初に発表した通期連結業績見直しを見直し、通期売上高14,200億円、営業利益1,200億円、税引前利益1,140億円、当期純利益800億円に上方修正いたします。配当金は、上期は70円から10円増配し80円、下期についても80円を予定し、年間160円、期初発表の140円から年間20円の増配を予定しています。

下半期の為替レートの前提は、現状から大きく乖離しない水準に見直し、上半期平均レートと同水準の対ドル110円、対ユーロ130円としています。

通期業績見直しについては、上半期実績が期初見直しにおいて前提としていた上期水準と比較し、想定以上の結果を残せたこと、また下半期においては事業ごとのアップダウンはあるものの、期初想定並の売上高・営業利益を確保できると見込み、上方修正いたします。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2019/2q_1.htm